

人を対象とする医学系研究に関する情報の公開

研究課題名	介助補助手袋を使用した背部の褥瘡予防について
所属科	420 病棟
研究責任者	栗原詩歩
研究期間	倫理委員会承認後～2022 年 2 月
研究概要	<p>○目的 介助補助手袋を使用した背抜きを実施し、患者に対する除圧効果と、今後の背部の褥瘡予防ケアへの活用について記録を振り返る。</p> <p>○対象 1) A 病院 B 病棟に入院中の患者 2) 障害高齢者の日常生活自立度 B2 から C2 であり研究に同意が得られた患者 3) 栄養状態の低下（アルブミン値 3.0mg/dl）がある、骨突出がある、皮膚が脆弱の中のどれか 1 つでも当てはまる患者 4) 「荏原病院耐圧分散寝具選択基準」のフローチャートから体位変換付きの耐圧分散寝具の使用が適合する患者</p> <p>○方法 対象に該当する患者の記録に以下の記載があるか確認する。 1) 「荏原病院耐圧分散寝具選択基準」のフローチャートに沿って適切な耐圧分散寝具を選択できていたのか記録を確認する。 2) ギャッチアップ時、ケア時、体位変換時、おむつ交換時に介助補助手袋にて除圧を行っていたのか記録を振り返る。 3) 正しい介助補助手袋の使い方を把握し、統一したケアを提供できていたのか記録を振り返る。 4) 褥瘡好発部位（背部）の発赤等、皮膚トラブルの有無をバイタルサイン測定時、オムツ交換時、体位変換時に観察を行い、記録内容を確認する。 5) 清拭後には保湿剤にて保湿できていたのか記録を振り返る。 6) 背部の骨突出部に患者の同意の上マーキングを行い、週に 1 度、仰臥位・ギャッチアップ後・背抜き後の体圧をモルテンにて測定し記録できていたか振り返る。 7) 実施期間中、褥瘡発生の有無に関わらず褥瘡ハイリスク項目に 1 つでもチェックがある場合や皮膚の変化があった際には、WOC に相談できていたか記録を振り返る。</p>

	<p>8)カンファレンスで情報共有を行い、ケアが適切であるか検討できていたか記録を確認する。</p> <p>9)対象が低栄養状態（アルブミン値 3.0mg/dl）の場合、本人や家族に嗜好の聴取を行い、管理栄養士、NST へ食事の相談をできていたか記録を振り返る。</p> <p>10)入院時、入院期間中に「褥瘡に関する診療計画書」を用いて週に1回褥瘡アセスメント評価を行っていたか確認する。</p> <p>○利用する項目</p>
倫理的配慮・個人情報保護の方法について	<p>本研究に関係するすべての研究者は最新の「ヘルシンキ宣言」および「臨床研究に関する倫理指針」に従って本研究を実施する。</p> <p>上記の研究に情報を利用することをご了承いただけない場合は、研究の問合せ先までご連絡ください。</p>
臨床研究登録の有無	無（臨床研究登録番号： ）
研究の問合せ先	公益財団法人 東京都保健医療公社 荏原病院 420 病棟 栗原詩歩
結果の公表について	該当なし
利益相反について	該当なし